

佐賀家ぎよば漁場りょうのニシン漁

1. 佐賀家しゅつじの出自

佐賀家せんぞの先祖は、九州佐賀ぶしの武士で、豊臣氏とよとみしの家来であったといわれており、大阪城おおさかじょうが落城らくじょう(※70)した際さいに家来しもきたが下北のに逃れてきたうちの1人であったそうです。

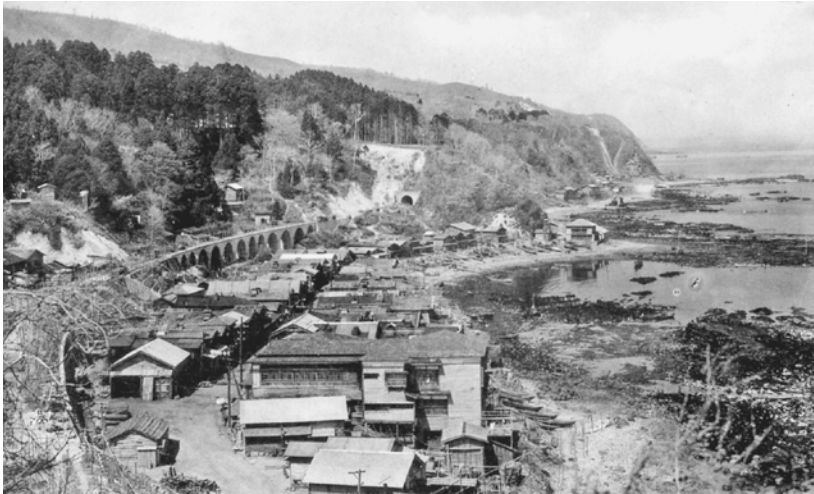
出身しゅっしんが佐賀ねづやの根津谷村であったことから代々屋号やごう(※71)を根津屋ねづやとし、下風呂村しもふる(※72)で漁業ぎょぎょうや海運業かいうんぎょうを営んできました。

また、下風呂しもふるでの商号しょうごうは代々だいだい⊗(マルニイゲタ)を使用しています。

※70 落城らくじょう
敵てきに城しろを攻め取られること。

※71 屋号やごう
家につけられる呼び名しょうごう。称号。

※72 下風呂村しもふる
現在の青森県げんざい下北郡風間浦村しもきたぐんかざまうら下風呂しもふる。



おうじ しもふるおんせんきょう
往時の下風呂温泉郷



げんざい しもふるおんせんきょう
現在の下風呂温泉郷

げんろく しもふるむらやくしによらいき りちょう
元禄元年(1688)の「下風呂村薬師如来記」に里長(※73)

佐賀氏の名前があることから、当時既に村の中心的な家
であったと考えられます。

佐賀氏がいつ頃から蝦夷地と関係をもったかは明らか
ではありませんが、商業と海運業を営むことによって
代々蝦夷地との関係を深めていったといわれています。

文化5年(1808)に下風呂の佐賀家と易国間(※74)の広谷
家は松前でニシン漁場を経営していますが、この頃に
蝦夷地との往来(※75)があったようです。

※73 里長

村長のこと。

※74 易国間

現在の青森県下北郡風間浦村易国間。

※75 往来

行ったり来たりすること。

佐賀家は、^{てんぽう}天保8年(1837)の10月に^{なんぶはん}南部藩(※76)へ^{けんきん}献金

(※77)したことなどの^{こうせき}功績により^{なんぶはんとくていとんや}南部藩特定問屋(※78)になっています。



^{なんぶはんとくていとんや}南部藩特定問屋 ^{かんばん}の看板

※76 ^{なんぶはん}南部藩

現在の岩手県盛岡市にあった領地。

※77 ^{けんきん}献金

ある目的のためにお金を差し上げること。

※78 ^{とくていとんや}特定問屋

^{せいさんしゃ}生産者から^{しょうひん}商品を仕入れて、^{はんばい}販売を行う^{りゅうつうぎょうしゃ}流通業者。